

プレスリリース

報道関係者各位

2018年5月18日

一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会

ソフトウェアメトリックス調査 2018年版発表

本調査は2004年度より開始し、開発、保守、運用の三分野において調査を実施してまいりました。2018年版より「開発・保守」「運用」に分冊しております。

このたび調査結果がまとまりましたので、トピックスをご紹介します。

■調査概要

調査期間は、2017年11月19日～2017年12月20日。JUAS会員企業を中心に調査を実施し、開発：新規追加76件、合計1352件、保守：新規追加73件、合計826件、運用：合計113社、について分析を行った。

■調査結果概要

(添付図表参照)

<開発>

2018年版の調査内容としては、重要な指標に関しては従来からの継承性を担保しつつ、新たに、経営に寄与する情報システムの視点、データドリブン経営の視点、プロジェクトマネジメントの視点、などの調査領域についても挑戦する内容となった。

従来からの生産性、品質、コスト、の分析に加え、最近のITの潮流に関する設問、経営の視点、プロジェクト推進上の課題・問題に関する設問、ユーザー部門の関与度の重要性の解析を試みる設問、など新たな調査項目を追加した。これらの改善により、さらにユーザー視点でのソフトウェアメトリックス活用が進むことを期待している。

<保守>

2018年版より設問内容を全社と個別に分割した。保守は、プロジェクト単位で行われることもあるが、複数のプロジェクトを保守していることも多いと考えたからである。個別プロジェクト単位の保守調査については、従来と同じ傾向が2018年版でも見られた。

<運用>

2016年版に運用コストの見える化・適正化に資することを目的に内容を大幅刷新し、3回目の調査である。過去2回のデータも活用して分析するとともに、分析手法も回帰分析に加えて比率分析を本格的に取り入れ、より多くの知見をお届けできるようにした。自社サービス水準の分析や運用の改善・向上のヒントにさせていただくことを期待している。

※調査結果は、添付図表をご参照ください。

■本リリースに関するお問い合わせ先

一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 担当：井上、五十井（いかい）

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-4-8 ユニゾ堀留町二丁目ビル8階

SWM 調査事務局メール：swm-juas@juas.or.jp